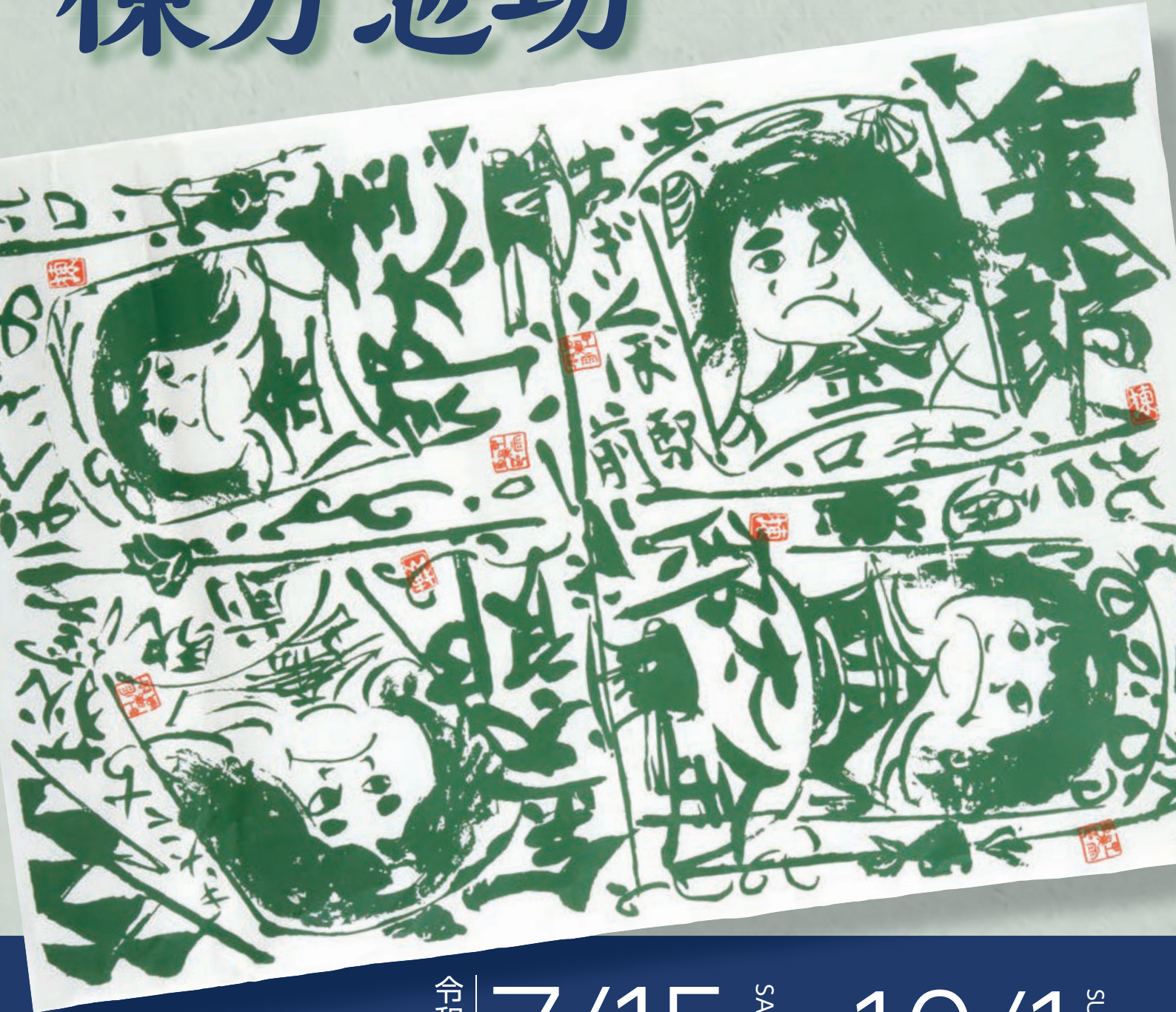


生誕120年 棟方志功

暮らしの中の**芸業**



令和5年

7/15 SAT ~ 10/1 SUN

[会 場] 杉並区立郷土博物館分館 西棟1・2階展示室
杉並区天沼3-23-1 (天沼弁天池公園内)
JR・東京メトロ丸ノ内線「荻窪」駅北口から徒歩10分

[開館時間] 午前9時～午後5時

[観 覧 料] 無料

[休 館 日] 毎週月曜日・毎月第3木曜日

(祝日の場合は翌日が休館日)

※7月17日・9月18日(月・祝)は開館し、7月18日・9月19日(火)は休館します。

[問 合 せ] ☎03-5347-9801



杉並区立郷土博物館 分館

Suginami Historical Museum

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/histmus/>





生誕120年 棟方志功

暮らしの中の芸業

今年^{むなかたしこう}は棟方志功(1903-1975)の生誕120年にあたります。棟方は昭和26年(1951)暮、疎開先の富山県福光町から杉並区荻窪(上荻)へと転居しました。

昭和31年(1956)には、ヴェネツィア・ビエンナーレでグランプリを受賞するなど、世界的な芸術家としての名声を荻窪の地で確立していきます。

棟方は自らの仕事を「芸術」ではなく「芸業^{げいごう}」と称しました。それは「業^{ごう}」という言葉が象徴するように、単なる職業としての芸術家とは異なり、全身全霊をかけて作品を生み出していく覚悟を示したものでしょう。

棟方が生み出したものは、いわゆる芸術作品だけではありません。日々の暮らしの中で広く人々の目に触れる包装紙のデザイン、あるいは転居するたび自宅のトイレに描いた「雪隠観音^{せっちんかんのん}」などもまた、暮らしの中から生まれてきた「芸業」と言えるのではないのでしょうか。荻窪での暮らしや人々との関わりといった観点から、棟方の「芸業」を紹介します。



1:茶を喫する棟方(昭和29年) 2:雪隠観音(昭和30年) 3:チャヤ夫人と(昭和27年) 4:制作中の棟方(昭和28年) 撮影:原田忠茂

光明妃の柵(昭和40-43年頃)

学芸員による展示解説 【日時】8月5日(土)・9月2日(土) 両日とも ①午後2時～2時30分 ②午後3時～3時30分
【場所】郷土博物館分館 西棟2階展示室(予約不要)

同時開催

- ・原田忠茂写真展「アトリエの棟方志功」
- ・「荻窪の家」の雪隠観音復元展示

【会場】郷土博物館分館 西棟1階展示室

 **杉並区立郷土博物館** 分館
Suginami Historical Museum

杉並区天沼3-23-1(天沼弁天池公園内)



※車での来館はご遠慮ください。